

神戸大学学報

No. 466

1995. 7 庶務部庶務課発行



神戸高商山岳会展覧会（大正5年頃）

目	次
◇学内ニュース 2	◇人事 6
・新役職員紹介	・異動 ・研修 ・海外渡航
・平成7年度厚生補導担当教官研究会の開催	◇学事 13
・平成6年度課外活動優秀団体・部員表彰式	・学位授与
・六甲台課外活動共用施設竣工式の挙行	・在籍学生数調べ（平成7年5月1日現在）
・クイーンズランド大学副工学部長が来学	・平成8年度入学者選抜方法等の決定
・平成7年度育友会理事会及び懇談会（全学及び学部別）の開催	・平成8年度大学院学生募集要項（抜粋）
・名誉教授・部局長懇談会の開催	・平成7年度国際研究集会派遣研究員の決定（第Ⅱ期）
・第12回医学部保健学科公開講座の閉講	◇掲示板 44
・平成7年度「さなばり祭」の実施	・神戸大学に寄せられた義援金について
・訃報	・日誌 ・訂正
◇学内規則 6	◇神戸大学100年史編集室だより 45

学内ニュース

◇新役員紹介

(7月1日発令)

※庶務課長



板橋 俊夫
(昭和25年11月11日生)

(学歴)

昭和49年3月 愛媛大学法文学部卒業

(職歴)

昭和49年4月 愛媛大学学生課

昭和51年7月 大臣官房企画室

昭和54年8月 初等中等教育局職業教育課

昭和57年4月 " 特殊教育課

内閣総理大臣官房審議室(併任)

昭和57年7月 初等中等教育局特殊教育課専門職員

昭和59年4月 " 中学校教育課指導

研修係長

昭和59年7月 " 中学校課指導

研修係長

平成元年4月 国立教育会館筑波分館研修課長

平成3年4月 " 管理課長

平成4年4月 徳島大学庶務部庶務課長

平成7年7月 神戸大学庶務部庶務課長

※医学部総務課長



中村 典秋
(昭和14年10月10日生)

(学歴)

昭和37年3月 龍谷大学文学部卒業

(職歴)

昭和38年3月 京都大学

昭和53年4月 滋賀医科大学総務部庶務課庶務係長

昭和56年3月 京都大学木材研究所庶務掛長

昭和58年12月 " 化学研究所総務課庶務掛長

昭和62年4月 " 庶務部人事課職員掛長

昭和62年4月 " " 総務主査

平成元年3月 " " 課長補佐

平成元年4月 明石工業高等専門学校学生課長

平成3年4月 京都大学胸部疾患研究所業務課長

平成5年4月 大阪大学医学部附属病院医事課長

平成7年7月 神戸大学医学部総務課長

◇平成7年度厚生補導担当教官研究会の開催

平成7年度厚生補導担当教官研究会が、6月2日(金)・3日(土)兵庫県立憩の家「新たんば荘」において開催されました。

この研究会は、毎年この時期に1泊2日の日程で、学生部長を始め補導協議会構成員に学生部職員の参加を得て、学生の補導厚生に関する諸問題を研究討議することを目的として開催されているものです。

本年度は、昨年度の研究会での決定に従い実施された通学方法等に関する実態調査の集計結果に基づく安全対策の具体化について討議されました。



— 学生課 —

◇平成6年度課外活動優秀団体・部員表彰式

6月5日(月)午後3時30分から、本部庁舎6階大会議室において、平成6年度課外活動優秀団体・部員表彰式が行われました。

今回の表彰は、平成6年度において、特に顕著な功績のあった公認の課外活動団体と個人に対して学長が表彰状を授与したものであり、本来、平成6年度中に実施すべきところ、震災によりやむなく新年度に入ってから実施となったものです。

表彰式には、被表彰団体代表者、被表彰部員のほか学長、学生部長、課外活動小委員会委員長、表彰団体の顧問教官、体育会及び文化総部の代表

者等約30人が出席して行われました。

表彰式終了後、引き続き本部庁舎6階中会議室において、懇談会が催され、和やかなうちに午後4時30分頃散会しました。

今回の優秀団体、優秀部員及び表彰理由は、下記のとおりです。

優秀団体	表彰理由
囲碁部	関西学生(1部)春季リーグ・秋季リーグとも優勝し、全日本大学囲碁選手権大会では3位になるなど、輝かしい成績を挙げた。
競技ダンス部	関西戦では常に上位の成績を挙げ、全日本学生競技ダンス選手権大会フォーメーションの部において、1位になり、同大会個人総合でも上位に入賞した。
ラクロス部	男子は、関西学生リーグ戦(1部・8大学)において優勝し、ラクロス全日本選手権大会では3位となり、優秀な成績を挙げた。

優秀部員	表彰理由
(囲碁部) 多賀文吾	団体戦における活躍のほか、全日本学生本因坊戦では優勝し、また全日本学生名人戦では惜しくも2位になるなど、全国大会で顕著な成績を残した。

— 学生課 —

◇六甲台課外活動共用施設竣工式の挙行

6月7日(水)午後4時30分から、六甲台課外活動共用施設の竣工式を同施設において行いました。

同施設は、六甲台学舎整備計画による国際協力研究棟建築のため、既存の自動車部部室・倉庫、緑の館及び六甲台グラウンド南側の学生部室の一部を統廃合したもので、将来本格的な課外活動共用施設が建立されるまでの暫定的施設として、六甲台グラウンド西北に建築された2階建延272㎡の建物です。

式典には、学長、学生部長、課外活動小委員会委員長、関係学部等の部局長及び補導委員並びに学内関係者等約40人が列席し、学長の挨拶、施設部長の工事概要報告の後、学生部長直筆による表札の前で記念撮影を行い、終わりました。

式典後、引き続き三木記念館において、披露祝

賀会を行い、同施設の竣工を祝いました。



— 学生課 —

◇クイーンズランド大学副工学部長が来学

6月7日に、本学の工学部が学術交流協定を結んでいますクイーンズランド大学(オーストラリア)の副工学部長ロバート・ワイルズ教授が工学部を訪問されました。その目的は学術交流及び留学生交流を活性化するための諸問題について討論することであり、片岡工学部長及び田中克己工学部国際交流促進委員会委員長と交流の現状とその問題点の把握、活性化へ向けてのステップ等について話し合いました。

その結果、留学生の交流は、両国の教育制度の相違から、大学院レベルの方が活発化しやすいこと、そのためには工学部間交流協定だけでなく自然科学研究科との間にも協定の枠を広げる必要があることを理解してもらうことができました。また、学術交流、留学生交流のためには、(1)大学間の情報交換を容易にする対策、(2)使用言語の障壁を低くする対策、(3)財政基盤を確保する対策などの問題があるので、これらを解決するように互いに努力することで意見が一致しました。その第一歩としてお互いの大学の教育研究活動の理解と交流の活性化に役立つ多様な情報をインターネットにより結ぶことをこちらから提案し、神戸大学工学部及び学科の紹介、全教官のデータベース化された最新の情報がパソコン通信により自由に得られることをデモンストレーションにより示しました。

その後、副工学部長が化学工学系教授であるため、応用化学科の化学工学系の研究室を鶴谷助教の案内で見学されました。続いて森脇、西野両評議員も加わって六甲山頂で昼食をしながら大学

間の友好関係の発展等について懇談を持つことができました。



—工学部—

◇平成7年度育友会理事会及び懇談会（全学及び学部別）の開催

定例の理事会及び懇談会が、6月10日（土）午後開催されました。理事会は、例年2回開催しておりますが、平成6年度は阪神・淡路大震災のため第2回（2月4日開催予定）を開催することができず、1年ぶりの理事会となりました。

今回は、経済学部会議室において、理事長をはじめ各理事の出席のもと、平成6年度事業・決算報告、平成7年度事業計画・予算案・新理事の選出（新入生保護者等）等の審議が行われ、それぞれ承認されました。

また、阪神・淡路大震災の本学における被害とその後の概況について説明し、被災者支援業務に従事する教職員への育友会からの援助や、広報紙発行、交通対策事業費等新規予算の計上並びに予算の弾力的運用等について活発な意見交換が行われました。

懇談会は、平成7年度新入生の保護者等（2,748名）に対し案内を行ったところ、近年では最多の約500名の出席を得て、午後2時30分から全学及び学部別の順に六甲台講堂等において開催されました。

全学懇談会においては、蔭山理事長及び西塚学長の挨拶があり、引続き、多淵副学長・大学教育研究センター長から『大学教育の改革』、柳川学生部長から『学生生活について』の講話がありました。

その後、学部別懇談会が各会場で実施され、学部長、補導委員、事務長等が出席の上、教育課程、施設・設備等の概況、大学院進学、就職状況、車両通学等の説明並びに質疑応答が活発に行われ、それぞれ午後5時頃終了しました。

新制大学に移行後約45年の育友会活動は、着実に発展するとともに、本学に対して様々な援助を得ておりますが、時代と共に変わりゆく大学や社会状況並びに学生の気質や生活を直視し、育友会と有機的関係のもとに事業の見直しと合理的・効果的運営に努めていきたいと考えております。

—学生課—

◇名誉教授・部局長懇談会の開催

6月22日（木）午後3時から、名誉教授と部局長との懇談会を新神戸オリエンタルホテルにおいて開催しました。

懇談会は、西塚学長の挨拶に始まり、引き続いて多淵副学長から大学の現況報告について、小林副学長及び望月病院長から兵庫県南部地震の対応状況等について、利根川理学部長から内海機能教育研究センター概要について、それぞれ説明があり、最後に名誉教授の代表の方々から近況が語られました。引き続き、記念撮影を行い、その後、懇親会を行いました。懇親会では西塚学長の音頭で乾杯の後、懇談に移り、和やかな雰囲気の下に午後6時30分に散会しました。

—庶務課—

◇第12回医学部保健学科公開講座の閉講

本年度公開講座の閉講式を6月24日（土）にカンファレンスルームにおいて行いました。

この講座は、昨年10月に医療技術短期大学部が医学部保健学科に移行したことに伴い、名称も「医学部保健学科公開講座」と改めて開講したもので、医療技術短期大学部時代から通算して12回を数えるに到っております。

同講座は、5月27日から6月24日の5週間にわたって毎週土曜日に「家庭内の医療—老いについて—」をテーマとして10講義を行ったものです。

日頃の生活の中で、健康を維持・増進し、病気を予防し、地域社会の保健に役立つようにとの観点から講座を実施しました。

学外からは、3名の講師を招き「老人の介護について」「老化と運動」「栄養について」など受講者の関心の高いと思われる分野について講義をいただいたほか、「肉体的老化について」「老人心理の特徴について」「高齢者の転倒について」「老年障害者に対する作業療法」「脳血管性痴呆について」「血圧・心臓疾患について」と変化に富んだ講座となりました。

熱心な受講者が多く、質疑応答も活発に行われ

るなど好評のうちに講座は閉講し、受講者87名の内6講義以上を受講された77名の方に、修了証書を授与しました。

—医学部保健学科—

◇平成7年度「さなほり祭」の実施

平成7年度農学部附属農場「さなほり祭」が、6月30日（金）午前11時30分から附属農場において行われました。

「さなほり祭（早苗饗祭）」は、田植えが無事に終わったことを祝い、田の神に感謝する農事の節目となる行事です。

当日は梅雨の合間の好天のもと、西塚学長をはじめ、事務局、農学部及び附属農場の教職員約60名が出席し、今年の豊穡を祈念しつつ、歓談しました。



—附属農場—

◇訃報

農学部高橋竹彦教授は、去る6月30日（金）午前3時55分に[]のため逝去されました。享年54歳でした。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福を心からお祈り申し上げます。

先生は昭和15年8月2日兵庫県神戸市に生まれ、昭和40年3月兵庫農科大学農芸化学科卒業後、昭和40年4月兵庫農科大学農芸化学科助手に就任されました。その後、神戸大学に移管した昭和44年4月には神戸大学農学部助手に、昭和62年12月には農学部助教授に、平成6年12月には教授となられ、兵庫農科大学時代と合わせて30年の間に土壌学の教育、研究に尽力されるとともに、農学部における各種委員等を勤めるなど、農学部および大学院自然科学研究科の充実、発展に大いに貢献されました。



先生は自然生態系の中の植物群落と土壌との関係をシステムとして把握する「植物群落—土壌系」を研究課題とされ、こよなく愛された六甲の山々をフィールドとして行った「アカマツ林の遷移と土壌の理化学性との関係に関する研究」によって、昭和62年3月には名古屋大学から農学博士の学位を授与されました。土壌や植物群落の調査から得られた貴重なデータは土壌肥科学会や林学会、生態学会などで発表されましたが、研究内容もさることながら、明朗快活、誠実で実直なお人柄は所属学会の会員諸氏からの信望も厚く、学会の幹事や運営委員などにもよく推挙されました。学科再編により新たな生物環境制御学科の生物環境学講座のスタッフも揃い、これまでの研究をさらに発展させようと意気込んでおられただけに、志半ばで断念せざるを得なかった先生のお気持ちは本当に悔しかったことと思われます。

先生はスポーツが大好きで、兵庫農科大学サッカー部時代にはキャプテンとしてリーグ優勝に導き、その後も神戸市のクラブチームの一員として元気に活躍されていました。また、学生時代に先生が企画された六甲山20kmマラソン大会は現在も引き継がれて農学部の恒例行事となっています。

いつも明るく、元気で、周囲の人に心配りをなさる暖かく優しいお人柄ゆえに、先生のお体の具合が悪いことを気付かれていた方はほとんどおられません。先生はお亡くなりになる直前まで元気な様子でしたが、実はガンと闘っておられ、その痛みも相当なものであったと思われます。今更ながら、先生のご精神力の強さに敬服いたしております。

先生はご家庭でも強く優しい父親であられましたが、一家の支えを失われた奥様とお子様の悲しみはことばでは言い表せないほどつらいことと思います。ご家族の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

告別式は7月2日（日）午後2時半から、先生が子供の頃より日曜学校に通われた関西学院教会で、敬愛する山岡神父の司式により関係者多数の出席する中しめやかに執り行われました。

白い花に包まれ讃美歌に送られながら静かに天国に召されて行かれました高橋先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

ご遺族の住所は、以下のとおりです。

[]

—農学部—

学 内 規 則

◇神戸大学学位規程医学研究科細則の一部を改正する細則

(平成6年6月16日制定)

改正理由

医学研究科に在学する者の学位申請条件を整備したこと。

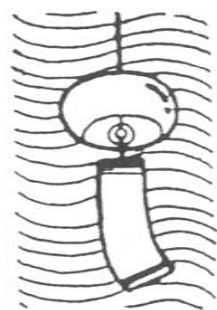
神戸大学学位規程医学研究科細則の一部を改正する細則

神戸大学学位規程医学研究科細則（昭和42年5月17日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第2項中「指導教授の指定する授業科目について24単位以上」を「30単位」に改める。

附 則

この細則は、平成7年7月1日から施行する。



◇異動

所属部局 官 職	氏 名	発令 月日	異 動 内 容 (異動前の所属官職)
事 務 局 [庶務部] (庶務課)	松 岡 憲 雄	7.1	出向「文部省学術 国際局学術情報課 専門員」(庶務課長)
庶 務 課 長	板 橋 俊 夫	"	配置換(徳島大学 庶務部庶務課長)
	阪 上 文 則	"	出向「高松工業高 等専門学校庶務課 長」(庶務課課長 補佐)
課 長 補 佐	城 谷 忠 澄	"	昇任(人事課専門 員)
	斉 藤 祐 子	6.30	辞職(事務補佐員)
(人事課)	最 上 敬	7.1	転任(大阪大学理 学部文学事務官)
文部事務官 [経理部] (経理課)	西 尾 裕美子	"	6月30日限り退職 (事務補佐員)
事務補佐員	大音師 睦 美	"	採用
総合情報処 理センター	文部事務官 藪 本 義 人	7.1	配置換(医学部医 事課文部事務官)
	高 橋 由宇子	6.30	辞職(事務補佐員)
事務補佐員	西 牧 陽 子	7.1	採用
大学教育研 究センター	長 岡 美和子	6.15	辞職(技術補佐員)
技術補佐員	木 村 早 苗	7.1	採用
文 学 部			
教 授	百 橋 明 穂	7.1	昇任(助教授)

人 事

国際文化学部	教 授 沖 原 勝 昭	7.1	昇任(助教授)
	助 教 授 西 谷 拓 哉	"	" (講師)
発達科学部	教 授 中 川 和 道	7.1	昇任(助教授)
	根 来 賀 子	6.20	出向「東京大学工 学部・工学系研究 科文部事務官」 (文部事務官)
(附属養護 学 校)	教 諭 杉 原 真 晃	6.15	臨時的任用
理 学 部			
	石 川 潔	7.1	出向「京都大学大 学院理学研究科助 手」(助手)
教 授	富 宅 喜代一	"	昇任(岡崎国立共 同研究機構分子科 学研究所機器セン ター助教授)
医 学 部			
助 手	堀 川 達 弥	6.10	復職
	溝 上 國 義	6.30	辞職(助教授)
	朝比奈 宏	"	" (助手)
助 教 授	井 上 正 則	7.1	昇任(講師)
"	松 本 明	"	" (")
講 師	阿 部 廣 己	"	配置換(医学部附 属病院講師)
"	片 上 千加子	"	" (")
助 手	斎 藤 公 明	"	" (" 助手)
"	内 山 敏 行	"	採用
"	村 津 裕 嗣	"	"
	廣 瀬 美 保	6.16	6月15日限り退職 (事務補佐員)
事務補佐員	村 井 教 子	"	採用
(総務課)	佐 藤 龍之助	7.1	出向「東北大学医 学部附属病院総務 課長」(総務課長)
総 務 課 長	中 村 典 秋	"	配置換(大阪大学 医学部附属病院医 事課長)
(管理課)			
(医事課)	福 本 恵 子	7.1	6月30日限り退職 (事務補佐員)
文部事務官	藤 田 祐 子	"	配置換(文学部文 部事務官)
	川 上 理 恵	"	6月30日限り退職 (事務補佐員)
事務補佐員	一 色 令 子	"	採用
医 学 部 附 属 病 院			
	塚 原 祐 子	6.15	辞職(助手)
	井 上 智 夫	6.30	" (講師)
	山 崎 峰 夫	"	" (")
	塩 山 晃 彦	"	" (助手)
講 師	川 嶋 成乃亮	7.1	昇任(医学部助手)
"	関 谷 善 文	"	" (" ")
"	加 治 秀 介	"	" (" ")
助 手	大 谷 徹 郎	"	採用
第一内科 医 局 長	川 嶋 成乃亮	"	命(講師)
医学部助手	前 田 均	"	免(第一内科医 局長)
老 年 科 外 来 医 長	岸 清 彦	"	命(助手)
医学部講師	木 下 芳 一	"	免(老年科外来 医長)
眼科医局長	関 谷 善 文	"	命(講師)
"	"	"	免(眼科外来医長)
医学部助教授	井 上 正 則	"	免(眼科医局長)
眼科外来医長	片 上 千加子	"	命(医学部講師)
眼科病棟医長	塚 原 康 友	"	" (" 助手)
皮膚科医局長	原 田 晋	"	" (" ")
講 師	上 田 正 登	"	免(皮膚科医局長)
(薬剤部)	寺 田 祐 子	"	6月30日限り退職 (技術補佐員)
技術補佐員	桑 原 晶 子	"	採用

(看護部)			
	勝田玲子	6.15	辞職(看護婦)
	森 栄子	6.16	育児休業(")
看護婦	野口 瞳	"	復帰(育児休業)
"	勝田玲子	"	臨時的任用
工 学 部			
教 授	神 吉 博	7.1	採用
助 教 授	上 場 輝 康	"	昇任(助手)
農 学 部			
	高 橋 竹 彦	6.30	死亡(教授)
大学院自然科学研究科			
	趙 孟 佑	6.30	辞職(助手)
	今 栄 直 也	7.1	出向[国立極地研究所助手](助手)
助 手	木 村 哲 也	"	転任(東京工業大学大学院総合理工学研究科助手)
大学院国際協力研究科			
	柳 口 未 来	6.30	辞職(助手)
研究科長事務代理	豊 田 利 久	7.1	命(教授)

◇研修

*平成7年度国公立大学病院薬剤部職員研修
 期 間 平成7年5月22日～5月26日
 会 場 財団法人 好仁会 3階会議室
 (東京大学医学部附属病院内)
 主 催 文部省
 参加者 医学部附属病院薬剤部調剤室 高見 政樹
 薬剤師

*平成7年度国公立大学病院診療放射線技術者研修
 期 間 平成7年6月5日～6月9日
 会 場 財団法人 好仁会 3階会議室
 (東京大学医学部附属病院内)
 主 催 文部省
 参加者 医学部附属病院中央放射線部
 放射性同位元素検査室
 診療放射線技師 南 利明

*平成7年度国公立大学病院臨床検査技術者研修
 期 間 平成7年5月29日～6月2日
 会 場 財団法人 好仁会 3階会議室
 (東京大学医学部附属病院内)
 主 催 文部省
 参加者 医学部附属病院中央検査部
 生理機能検査部門 今西 孝充
 臨床検査技師

*平成7年度国立学校事務電算化基幹要員B研修
 期 間 平成7年6月12日～6月16日
 会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
 主 催 文部省
 参加者 経理部経理課情報処理掛 薦田 長秀

*平成7年度国立大学附属病院事務職員研修
 期 間 平成7年6月21日～6月23日
 会 場 財団法人 好仁会 3階会議室
 (東京大学医学部附属病院内)
 主 催 文部省
 参加者 医学部医事課外科系主任 池ノ上邦夫
 " 医事掛保険主任 上田 則子

*平成7年度テーマ別研修
 期 間 平成7年5月31日～6月1日
 会 場 大阪合同庁舎第4号館
 主 催 人事院近畿事務局
 参加者 医学部医事課医療福祉掛長 東 喜佐雄

*第19回近畿地区課長補佐研修
 期 間 平成7年6月19日～6月23日
 会 場 大阪合同庁舎第2号館
 かいづか山荘(貝塚市三ヶ山392)
 主 催 人事院近畿事務局
 参加者 庶務部庶務課課長補佐 南木 秀昭

*平成7年度人事院式監督者研修(JST基本コース)
 期 間 平成7年6月21日～6月23日
 会 場 神戸大学自然科学系図書館会議室
 共 催 兵庫県下国立学校等
 (当番校 神戸大学)

参加者
 国立淡路青年の家庶務課庶務係長 葛原 政志
 兵庫教育大学総務部会計課給与係長 木下 一郎
 " 教務部教務課附属学校係長 深田 哲
 神戸商船大学庶務課福祉係長 三村 幸一
 " 附属図書館閲覧係長 松下 清
 明石工業高等専門学校学生課寮務係長 佐々木正一
 神戸大学庶務部国際交流課国際学術掛長 榎原千鶴子
 " 庶務部留学生課留学生センター掛長 井村 和彦
 " 施設部建築課第一工営掛長 岩瀬 生男
 " 附属図書館情報サービス課 情報サービス第四掛長 竹中 京子
 " 経営学部庶務掛長 甲 俊章
 " 国際文化学部教務学生第三掛長 藤原 義夫
 " 発達科学部附属住吉校事務掛長 平山 律子
 " 発達科学部附属養護学校事務掛長 藤田 芳和
 " 経済経営研究所会計掛長 井上 晴夫
 " 医療技術短期大学部会計掛長 森田 雅彦
 " 医学部附属病院薬剤部麻薬室長 清原 義史
 " 医学部附属病院中央検査部 臨床検査主任技師 上田 恵子
 " 医学部附属病院中央放射線部 診療放射線主任技師 川瀬 修三
 " 医学部附属病院看護部看護婦長 岡島 啓子

*平成7年度兵庫県下国立学校等事務系職員(新規採用者)研修
 期 間 平成7年6月27日～6月30日
 会 場 神戸大学自然科学系図書館会議室
 国立淡路青年の家
 共 催 兵庫県下国立学校等
 (当番校 神戸大学)

参加者
 兵庫教育大学総務部会計課用度係 河邊 隆志
 神戸大学庶務部人事課職員掛 谷口あゆみ
 " 庶務部人事課給与掛 平山 克也
 " 経理部経理課用度掛 香月 義生
 " 施設部建築課第一工営掛 瀧波香陽子
 " 施設部建築課第二工営掛 細川 善秀
 " 附属図書館情報管理課 情報管理第一掛 榎本 陽子
 " 国際文化学部教務学生第一掛 今井 雅代
 " 発達科学部用度掛 湯川 美紀
 " 経済学部会計掛 高橋望智子
 " 医学部管理課用度第一掛 筒井 洋介
 " 医学部管理課用度第二掛 山下 潤
 " 医学部管理課環境整備掛 川野 真一
 " 医学部医事課外来掛 堀井 学
 " 医学部医事課収入掛 阪本 尚樹
 " 工学部経理掛 松下 哲也
 " 工学部教務学生掛 上杉 耕平
 " 工学部建設学科 小椋 大輔
 " 農学部会計掛 酒井 香織
 " 農学部附属農場 正木健太郎

◇海外渡航

所 属	職 名	氏 名	渡 航 先	渡 航 目 的	渡航期間	備 考
文 学 部	助教授	渥美 公秀	香港	アジア社会心理学会出席，社会的表象研究グループとの研究打合せ及び資料交換	7. 6.19 ～ 7. 6.23	研 修
国際文化学部	“	山崎 康仕	オーストリア ギリシア，イタリア 連合王国，スウェーデン，ドイツ	倫理の法制度化に関する理論的及び実証的研究	7. 6. 5 ～ 8. 4. 4	出 張
“	“	櫻井 徹	イタリア 連合王国	第17回法哲学・社会哲学国際学会連合世界大会出席及び近代自然法論関係の資料収集	7. 6.14 ～ 7. 6.27	研 修
“	教 授	鍋木 誠	メキシコ	国際ワークショップ「クラスター変分法と経路確率法の理論と応用」参加及び情報処理教育視察	7. 6.17 ～ 7. 6.25	“
理 学 部	助教授	福山 克司	カナダ	確率論における極限定理の研究	7. 6. 1 ～ 8. 3.10	出 張
“	教 授	佐藤 博明	アメリカ合衆国	日米科学協力事業セミナー「非平衡混相系の強い相互作用に関する国際研究のための国際セミナー」出席及びハワイ火山の調査・試料採取	7. 6. 8 ～ 7. 6.19	研 修
“	“	野海 正俊	カナダ	国際会議「特殊関数，q級数及び関連する話題」出席	7. 6.10 ～ 7. 6.27	出 張
“	助教授	新井 正敏	連合王国	大型スプレッションパルス中性子源を用いた中性子散乱による物質の動的構造研究	7. 6.17 ～ 7. 7. 3	“
“	“	野崎 光昭	カナダ	超伝導スペクトロメータを用いた宇宙粒子線観測実験	7. 6.30 ～ 7. 8.12	“
医 学 部	講 師	西野 直樹	“	カナダ神経精神薬理学会第18回年会シンポジウム招待発表のため	7. 6. 3 ～ 7. 6. 9	研 修
“	教 授	春日 雅人	デンマーク 連合王国	第1回コペンハーゲンインスリン作用シンポジウム及び糖尿病学に関する研究打合せ	7. 6. 4 ～ 7. 6.10	“
“	講 師	寮 隆吉	イスラエル 連合王国	第15回国際血栓止血学会出席及び血液学に関する研究交換	7. 6. 7 ～ 7. 6.16	出 張
“	助 手	乾 明 夫	アメリカ合衆国	トランスジェニック技術を用いた行動の分子基盤に関する研究	7. 6. 9 ～ 7. 6.14	“
“	教 授	新福 尚隆	フィリピン	第5回精神衛生協調会議出席	7. 6.10 ～ 7. 6.18	“
“	助教授	朝田 雅博	アメリカ合衆国	第4回国際脳血管外科会議及びセントルイス解剖と手術法ワークショップに出席するため	7. 6.10 ～ 7. 6.19	“
“	助 手	杉本 利嗣	“	1995 Growth and Recovery Global Medical Conferenceで招待講演及び内分泌学に関する研究交換	7. 6.11 ～ 7. 6.15	研 修
“	教 授	千原 和夫	“	第77回米国内分泌学会出席及び内分泌学に関する研究交換	7. 6.11 ～ 7. 6.19	“
“	助 手	置村 康彦	“	“	7. 6.12 ～ 7. 6.20	“

所 属	職 名	氏 名	渡 航 先	渡 航 目 的	渡航期間	備 考
医 学 部	教 授	伊東 宏	大韓民国	人体病理学に関する研究交換	7. 6.13 ～ 7. 6.14	出 張
“	助教授	船原 芳範	インドネシア タイ	マラリア感染患者の病態生理学的研究	7. 6.14 ～ 7. 6.25	“
“	教 授 (医療技術 短期大学部 部 長)	石川 齊	オランダ	第13回ヨーロッパリウマチ学会出席	7. 6.18 ～ 7. 6.24	研 修
“	助教授	平田総一郎	“	“	“	“
“	助 手	足立 順子	イタリア	第8回トリブトファン研究国際会議出席及び法医学に関する研究交換	7. 6.22 ～ 7. 7. 1	“
“	“	米田 稔彦	アメリカ合衆国	第12回世界理学療法学会 (WCPT '95) 出席，演題発表及び研修会参加	7. 6.23 ～ 7. 7. 5	“
“	教 授	武富 由雄	“	世界理学療法連盟国際学会出席	7. 6.24 ～ 7. 7. 2	出 張
“	助 手	平田 まり	タイ	タイ南部地域における種々の疾患頻度の基本調査	7. 6.25 ～ 7. 7. 1	“
“	“	藤田 健司	フィンランド	第6回国際肩関節学会出席及び肩関節に関する研究交換	7. 6.25 ～ 7. 7. 3	“
“	教 授	水野 耕作	フィンランド スウェーデン	第6回国際肩関節学会出席	7. 6.26 ～ 7. 7. 6	研 修
“	助 手	岩崎 安伸	“	“	7. 6.27 ～ 7. 7. 5	出 張
“	教 授	堀田 博	インドネシア フィリピン	東南アジア地域に存在するC型肝炎ウイルス変異株の解析	7. 6.30 ～ 7. 7. 8	“
“	助 手	荻谷 研一	アメリカ合衆国	米国実験生物学会連合夏期研究集会出席及び分子生物学に関する情報交換	7. 6.30 ～ 7. 7. 9	“
工 学 部	“	中川 清	“	フォトリクラクティブの材料，効果デバイス国際会議出席	7. 6. 9 ～ 7. 6.19	“
“	“	安達 泰治	ブルガリア イタリア	第8回連続体モデル，離散システム会議 第3回生体医工学シュミレーション会議出席 及び研究交換	7. 6. 9 ～ 7. 6.25	“
“	“	上場 輝康	スウェーデン カナダ	第48回国際溶接学会出席及び鋼管接合部実験視察	7. 6. 9 ～ 7. 6.24	研 修
“	助教授	富山 明男	スロベニア イタリア フランス	第3回移動境界国際会議出席及び研究交換	7. 6.17 ～ 7. 7. 8	出 張
“	“	塩崎 賢明	連合王国	イギリスにおける都市計画に関する研究資料収集	7. 6.18 ～ 7. 6.24	研 修

所 属	職 名	氏 名	渡 航 先	渡 航 目 的	渡航期間	備 考
工 学 部	助教授	沖村 孝	シンガポール	国際地形学会東南アジア会議出席及び研究資料収集	7. 6.18 } 7. 6.24	研 修
"	講 師	森田 浩	"	1995INFORMSシンガポール会議出席及び研究資料収集	7. 6.25 } 7. 6.29	"
"	教 授	藤井 進	"	INFORMS主催シンガポール国際会議出席及び研究資料収集	"	出 張
"	助 手	阪上 公博	ノルウェー	第15回国際音響学会議出席	7. 6.25 } 7. 7. 2	"
"	教 授	森本 政之	"	第15回国際音響学会議出席及び研究資料収集	7. 6.25 } 7. 7. 5	研 修
"	"	櫻井 春輔	オーストラリア	人工衛星利用航海技術に関するオーストラリア会議出席及びGPS測定の地盤工学への適用に関する研究交換	7. 6.26 } 7. 7. 6	"
"	"	富田 佳宏	アメリカ合衆国	アメリカ機械学会材料力学国際会議出席及びマイクロメカニクス研究交換	7. 6.27 } 7. 7. 3	出 張
農 学 部	助教授	内田 一徳	オランダ	第5回国際海洋極地工学会議出席及び論文発表	7. 6.10 } 7. 6.20	"
自然科学研究科	教 授	中西 テツ	アメリカ合衆国	米国東部の果樹園立地に関する資料収集	7. 6.12 } 7. 6.22	研 修
国際協力研究科	"	片山 裕	フィリピン 香港	フィリピン国バナウェ・ライス・テラスに関する学術調査	7. 6. 6 } 7. 6.16	出 張
"	"	松下 洋	台湾	国際ラテンアメリカ研究学術連盟主催学会出席	7. 6.24 } 7. 6.29	研 修
経済経営研究所	助教授	延岡健太郎	カナダ アメリカ合衆国	IMVP年次会議にて発表及び企業を研究訪問	7. 6. 3 } 7. 6.11	"
"	教 授	下村 和雄	フランス	国際シンポジウム「国際経済学の最近の展開」にて研究報告	7. 6.12 } 7. 6.19	"
"	"	片山 誠一	"	国際経済学会「国際経済学における最近の発展」にて報告及び討論者として参加	7. 6.12 } 7. 6.21	"
"	"	後藤 純一	大韓民国	NBER東アジア経済セミナーで論文を報告するため	7. 6.14 } 7. 6.18	"

学 事

◇学位授与

6月20日(火)午前11時から、自然科学研究科大会議室において、博士(経済学)、博士(医学)、博士(学術)、博士(理学)、博士(工学)及び博士(農学)の学位授与式を行いました。

学位を授与された者の氏名、論文題目等は次のとおりです。

[課程博士]

氏 名	学位の種類	授与年月日	論 文 題 目
張 幸 恵	博士(経済学)	7. 3. 31	銀行貸出、企業間信用及び実体経済
大 津 雅 秀	博士(医学)	"	Immunohistochemical Study of p53, EGF, EGF-receptor, v-erb B and ras p21 in Squamous Cell Carcinoma of Hypopharynx (下咽頭扁平上皮癌における p53, EGF, EGF-receptor, v-erb B 及び ras p21 の免疫組織化学的検討)
笠 原 孝 一	"	"	Distinct Effects of Saturated Fatty Acids on Protein Kinase C Subspecies (各種飽和脂肪酸のプロテインキナーゼCに対する分子種特異的効果について)
谷 口 泰 造	"	"	Cholecystokinin-B/gastrin receptor signaling pathway involves tyrosine phosphorylations of p125FAK and p42MAP (ヒト・コレシストキニン-B/ガストリン受容体を介する p125FAK および p42MAP のチロシンリン酸化)
菅 原 正	"	"	BIOSYNTHESIS OF A BIOLOGICALLY ACTIVE SINGLE PEPTIDE CHAIN CONTAINING THE HUMAN COMMON α AND CHORIONIC GONADOTROPIN β SUBUNITS IN TANDEM (生物学的活性を有するペプチド鎖の生合成ヒト絨毛性ゴナドトロピン α 及び β サブユニットを縦列連結した蛋白に関する研究)
神 垣 隆	"	"	Radiolocalization of Pancreatic Carcinoma Xenografts in Nude Mice with Radiolabeled Chimeric Fab Fragments of Anti-Carcinoembryonic Antigen Monoclonal Antibody A10 (癌胎児性抗原(CEA)に対するモノクローナル抗体A10のキメラ化Fabフラグメントのヌードマウス移植腫瘍への集積性の検討)
堀 田 和 亜	"	"	インスリン刺激によるCSKを介するSrcファミリーチロシンキナーゼ活性の抑制
吉 田 茂 樹	"	"	子宮頸部扁平上皮癌細胞(CaSki)のEGF受容体発現、細胞増殖能ならびにSCC産生能に及ぼすエストロゲンと甲状腺ホルモンの影響



—庶務課—

李 明 鎮	博士 (医学)	7. 3. 31	Regional differences in expression of osteonectin mRNA after administration of cadmium to rats (カドミウム投与によるラットオステオネクチン mRNA の部位別発現量の相違)
田 守 義 和	"	"	Substitution at Pro385 of GLUT1 Perturbs the Glucose Transport Function by Reducing Conformational Flexibility (糖輸送担体 GLUT1 の 385 番目のプロリンの置換は、形態的自由度を減ずることにより、糖輸送能を障害する)
上 野 博 久	"	"	膵β細胞由来培養細胞系に発現する Rab11 サブタイプ, Rab11B のクローニング
小 林 竜 也	"	"	Calcitonin directly acts on mouse osteoblastic MC3T3-E1 cells to stimulate mRNA expression of c-fos, insulin-like growth factor-1 and osteoblastic phenotypes (type 1 collagen and osteocalcin) (カルシトニンはマウス骨芽細胞株 MC3T3-E1 細胞に直接作用し、c-fos, insulin-like growth factor-1 および骨芽細胞形質 (1 型コラーゲン, オステオカルシン) の RNA 発現を促進する)
林 晃 史	"	"	精巣における DNA 合成関連酵素と温度に関する基礎的研究
長 久 裕 史	"	"	マウス腎における Klebsiella pneumoniae の病態に関する基礎的研究と抗菌薬の感染防御効果
柴 沼 均	"	"	色素性絨毛結節性滑膜炎の実験モデルの作成
許 大 康	"	"	Acquired cytomegalovirus infection and blood transfusion in preterm infants (早産児における後天性サイトメガロウイルス感染と輸血に関する研究)
松 尾 裕 文	"	"	In situ hybridization 法によるラット角膜 Mn-SOD mRNA の局在
谷 岡 康 喜	"	"	AMELIORATION OF REWARMING ISCHEMIC INJURY OF THE PANCREAS GRAFT DURING VASCULAR ANASTOMOSIS BY INCREASING TISSUE ATP CONTENTS DURING TWO-LAYER COLD STORAGE METHOD (二層法保存による膵グラフト内 ATP 濃度上昇がもたらす、移植操作時の rewarming ischemic injury の軽減作用について)
梶 本 康 雄	"	"	Delayed changes in neural visinin-like calcium-binding protein gene expression caused by acute phencyclidine administration (フェンサイクリジン急性投与による神経特異的ビジニン類似カルシウム結合タンパク質発現の遅延性の変化)
田 村 孝 雄	"	"	トランスフェクションによる wild-type p53 安定発現大腸癌細胞株の樹立とその細胞特性の変化

岡 田 守 人	博士 (医学)	7. 3. 31	Establishment of canine pulmonary hypertension with dehydromonocrotaline: Importance of a larger animal model for lung transplantation (肺高血圧犬モデルの確立と肺移植におけるその意義)
近 藤 眞 史	"	"	CORRELATION OF THE CLINICAL MANIFESTATIONS AND GENE MUTATIONS OF JAPANESE XERODERMA PIGMENTOSUM GROUP A PATIENTS (色素性乾皮症 A 群日本人患者における臨床的特徴と遺伝子型の相関性について)
田 中 佳 秋	"	"	Color-Fluorescein Relationship In Glaucomatous Optic Nerve Damage (緑内障性視神経障害における色調-蛍光相関)
水 谷 剛	博士 (学術) (自然科学研究科)	"	Polarized Parton Distributions in the Nucleon by a Constituent Quark Model (構成子クォークモデルによる核子中の偏極パートン分布)
金 漢 珉	"	"	Spectroscopic Studies of Semiconductor Microcrystals (半導体超微粒子の分光学的研究)
汪 藍 天	"	"	DESIGN OF CONTINUOUSLY DISTRIBUTED STRUCTURES: Shape Optimization of Clamped Columns and Beams (連続分布構造体の設計: 両端が固定された柱およびはりの形状最適化)
樫 本 朋 子	"	"	生活環境が骨代謝に及ぼす影響〜骨粗鬆症の早期予防のために〜
福 井 秀 人	博士 (理学)	"	Study of the Neutral B Meson Oscillations using the OPAL Detector (オパール測定器を用いた中性 B メソン振動の研究)
西 澤 潔	"	"	HIGH RESOLUTION LASER SPECTROSCOPY ON EXCITED MOLECULES AND THE EFFECTS OF MAGNETIC FIELD (励起分子の高分解能レーザー分光と磁場効果)
佐々田 敏 宏	"	"	Fermion Currents and Twist-Untwist Intertwining Currents on Asymmetric Orbifolds (非対称オービフォールド上のフェルミオン・カレントとツイスト・アンツイスト相互入れ換えカレント)
宋 明 良	博士 (工学)	"	瞬時局所的基礎方程式に基づく気液二相気泡流に関する数値解析的研究
赤 對 秀 明	"	"	鉛直円管内気液三相気泡流の流動特性に関する研究
岩 前 篤	"	"	表層系地盤の熱水分性状に関する研究
上 田 和 巳	"	"	音の拡がり感の予測手法に関する研究

水 島 考一郎	博士（工学）	7. 3. 31	移動画像のシミュレーションに関する研究
浅 岡 聖 二	〃	〃	高分子複合材料界面の構造解析及びその制御に関する研究
申 興 哲	〃	〃	精密送り機構に関する研究
季 仲 舒	〃	〃	PERMUTATION CODING-NEW THEORY FOR LOW-BITRATE IMAGE COMPRESSION (置換符号化-低ビットレート画像圧縮への新たな理論)

〔論文博士〕

氏 名	学位の種類	授与年月日	論 文 題 目
松 岡 憲 司	博士（経済学）	7. 5. 17	賃貸借の産業組織分析
小 原 茂 次	博士（医学）	7. 3. 22	肝内結石症に対する治療法の試み、胆管内合成樹脂充填についての実験的研究
中 島 卓 利	〃	7. 4. 12	消化性潰瘍再発における Helicobacter pylori の意義
松 田 康 平	〃	〃	モルモット胃粘液培養細胞の増殖に対する各種増殖因子と消化管ホルモンの効果
奥 谷 俊 夫	〃	〃	Grb2/Ash Binds Directly Tyrosines 1068 and 1086 and Indirectly to Tyrosine 1148 of Activated Human Epidermal Growth Factor Receptors in Intact Cells (Intact CellにおいてGrb2/Ashは活性化されたヒト上皮成長因子受容体の1068位と1086位のチロシンに直接結合し、1148位のチロシンには間接的に結合する。)
金 子 翼	〃	〃	The Reduced Motion Ability in the Upper Extremity on the Unaffected Side of Stroke Induced Hemiplegia and Trauma (脳卒中片麻痺と外傷の健側上肢における動作能力低下に関する研究)
三 和 秀 輔	〃	7. 5. 10	MONOPHASIC ACTION POTENTIALS IN PATIENTS WITH TORSADES DE POINTES (トルサデス・デ・ポワン型心室性頻拍患者に於ける単相性活動電位の検討)
田 村 三 郎	博士（理学）	7. 4. 28	順序代数系の語の問題
高 松 弘 行	博士（工学）	〃	光熱変位計測の高感度化と材料評価への応用に関する研究

新 居 弘 壬	博士（工学）	7. 4. 28	電界効果形液晶の電気光学特性とその応用に関する研究
島 田 忠 幸	〃	〃	橋梁ケーブルの張力測定と維持・管理に関する研究
佐 藤 真奈美	〃	〃	建築壁体の熱・湿気性状の解析と防湿設計法に関する研究
高 野 誠	〃	〃	分散通信システムのネットワーク管理に関する研究
相 野 公 孝	博士（農学）	〃	蛍光性 Pseudomonas を用いたトマト青枯病の生物的防除に関する研究
門 脇 義 行	〃	〃	イネに疑似紋枯症を起因する各種菌核病の診断学的・疫学的研究



◇在籍学生数調べ（平成7年5月1日現在）

◎学部

学部名	入学定員	総定員	在籍者数
文学部	115	500	546(286)
国際文化学部	140	420	422(243)
発達科学部	280	840	833(471)
教育学部		420	512(257)
法学部 昼間主コース	240(20)	950	1,135(333)
法学部 夜間主コース	40	80	79(40)
法学部 第二課程		240	281(80)
法学部 3年次編入学	20		
経済学部 昼間主コース	290(20)	1,140	1,266(214)
経済学部 夜間主コース	40	80	81(12)
経済学部 第二課程		240	285(46)
経済学部 3年次編入学	20		
経営学部 昼間主コース	280(20)	1,150	1,254(222)
経営学部 3年次編入学	20		
経営学部 夜間主コース	50	150	148(30)
経営学部 第二課程		140	182(28)
理学部 3年次編入学	155(15)	665	715(159)
医学部	15		
医学部	260	760	778(290)
工学部 3年次編入学	640(100)	2,600	2,904(223)
工学部	10		
農学部	185(25)	740	767(325)
合計	2,800(200)	11,115	12,188(3,259)

（注）入学定員の（ ）は臨時増募を、在籍者数の（ ）は女子をそれぞれ内数で示す。

教育学部及び経営学部第二課程は平成5年度入試より募集停止。

法・経済学部各第二課程は平成6年度入試より募集停止。

◎大学院

研究科名	修士（博士前期）			博士（博士後期）		
	入学定員	総定員	在籍者数	入学定員	総定員	在籍者数
文学研究科	50	100	130(75)			
教育学研究科	70	140	142(69)			
法学研究科	64	121	105(26)	30	76	80(15)
経済学研究科	43	86	38(3)	23	75	40(10)
経営学研究科	63	119	128(32)	31	84	60(9)
理学研究科			3(0)			
医学研究科				62	248	298(60)
工学研究科			10(0)			
農学研究科			1(0)			
文化学研究科				13	39	91(38)
自然科学研究科	449	898	983(106)	69	161	238(37)
国際協力研究科	64	128	134(71)	23	23	21(12)
合計	803	1,592	1,674(382)	251	706	828(181)

（注）在籍者数の（ ）は、女子を内数で示す。

理学研究科、工学研究科、農学研究科は平成6年度入試より募集停止。

◎別科

別科名	入学定員	在籍者数
養護教諭特別別科	40	40(40)

（注）在籍者数の（ ）は、女子を内数で示す。

◎発達科学部附属学校

学校名	学級数	在籍者数
附属住吉小学校	18(3)	626(10)
附属明石小学校	12	466
附属住吉中学校	9(3)	347(16)
附属明石中学校	9	355
附属幼稚園	5	178
附属養護学校	9	48
合計	61(6)	2,065(51)

（注）学級数の（ ）は、帰国子女教育学級を外数で示す。

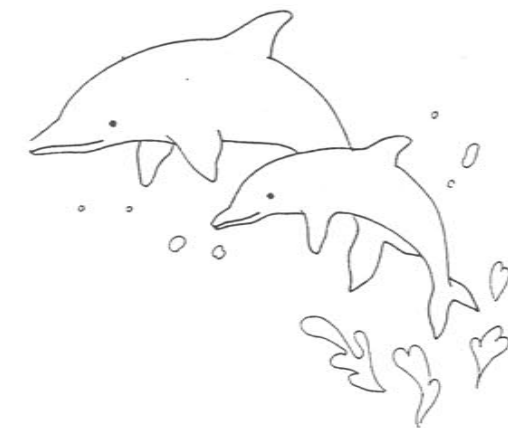
在籍者数の（ ）は、帰国子女を外数で示す。

◎医療技術短期大学部

学科名	入学定員	総定員	在籍者数
看護学科		160	162(160)
衛生技術学科		80	81(79)
理学療法学科		40	44(31)
作業療法学科		40	51(44)
合計		320	338(314)

（注）在籍者数の（ ）は、女子を内数で示す。

平成6年度入試より募集停止。



入学者選抜方法等（特別選抜）

[illegible]

特別選拔方法（推薦入学）

実施学部・学科名	経済学部 昼間コース
募集人員	60人
選抜期日 選抜方法	高等学校長の推薦に基づき、推薦書、調査書及び自己推薦書の内容、大学入試センター試験の成績、健康診断の結果を総合して入学者の選抜を行う。 個別学力検査等は免除する。
出願期間	平成7年12月15日（金）から平成7年12月22日（金）午後5時までに必着のこと。
出願要件	1 推薦の要件 高等学校を平成7年3月卒業又は平成8年3月卒業見込みの者で、次の各号に該当し、学力のみならず人物、能力、資質等において特に優れ、高等学校長が責任をもって推薦する者。 (1) 調査書の評定平均値の平均が4.0以上の者 (2) 平成8年度大学入試センター試験の5教科を受験する者 (3) 合格した場合、必ず入学することを確約できる者 2 推薦人員 各高等学校から推薦できる者は、1校当たり2人以内とする。
その他	1 合格発表 平成8年2月9日（金）午後2時 2 学生募集要項請求方法 募集要項（平成7年11月中旬発表予定）は、経済学部教務学生掛（〒657 神戸市灘区六甲台町2-1）において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「経済学部昼間コース推薦入学募集要項請求」と書き、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手270円を貼付した返信用封筒（角型2号、幅24.0cm×長さ33.2cm）を同封して請求すること。

法學部夜間主コース

実施学部 ・学科名	法 学 部 夜 間 主 コ ー ス
募集人員	15人
選抜期日	高等学校長の推薦に基づき、推薦書、調査書の内容、大学入試センター試験の成績、面接及び健康診断の結果を総合して入学者の選抜を行う。 個別学力検査は免除する。
選抜方法	面接期日 平成8年1月5日(金)
出願期間	平成7年12月15日(金)から平成7年12月22日(金)午後5時までに必着のこと。
出願要件	1 推薦の要件 高等学校を平成4年3月以降に卒業した者及び平成8年3月卒業見込みの者で、次の各号に該当し、学力のみならず人物、能力、資質等において特に優れ、高等学校長が責任をもつて推薦する者。 (1) 調査書の評定平均値の平均が4.0以上の者 (2) 平成8年度大学入試センター試験の理科を除く4教科のうち1教科を選抜受験する者 (3) 在学中定職に就き勉学する者 (4) 合格した場合、必ず入学することを確約できる者 2 推薦人員 各高等学校から推薦できる者は、1校当たり3人以内とする。
その他	1 合格発表 平成8年2月9日(金)午後2時 2 学生募集要項請求方法 募集要項(平成7年11月中旬発表予定)は、法学部第二課程掛(〒657 神戸市灘区六甲台町2-1)において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「法学部夜間主コース推薦入学募集要項請求」とし、宛先、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手270円を貼付した返信用封筒(角型2号、幅24.0cm×長さ33.2cm)を同封して請求すること。 3 その他 推薦による入学選抜の結果不合格になった者で、法学部夜間主コースの一般選抜の受験を希望する者は、改めて出願手続を行うこと。この場合、大学入試センター試験は法学部が指定した4教科を受験していなければならない。

実施学部・学科名	経済学部夜間主コース
募集人員	10人
選抜期日	高等学校長の推薦に基づき、推薦書、調査書の内容、大学入試センター試験の成績、面接及び健康診断の結果を総合して入学者の選抜を行う。 個別学力検査は免除する。
選抜方法	面接期日 平成8年1月5日(金)
出願期間	平成7年12月15日(金) から平成7年12月22日(金) 午後5時までに必着のこと。
出願要件	1 推薦の要件 高等学校を卒業した者及び平成8年3月卒業見込みの者で、次の各号に該当し、学力のみならず人物、能力、資質等において特に優れ、高等学校長が責任をもって推薦する者。 (1) 調査書の評定平均値の平均が4.0以上の者 (2) 平成8年度大学入試センター試験の数学又は英語を受験する者 (3) 在学中定職に就き勉学する者 (4) 合格した場合、必ず入学することを確約できる者 2 推薦人員 各高等学校から推薦できる者は、1校当たり2人以内とする。
その他	1 合格発表 平成8年2月9日(金) 午後2時 2 学生募集要項請求方法 募集要項(平成7年11月中旬発表予定)は、経済学部第二課程掛(〒657 神戸市灘区六甲台町2-1)において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「経済学部夜間主コース推薦入学募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手 270円を貼付した返信用封筒(角型2号、幅24.0cm×長さ33.2cm)を同封して請求すること。 3 特別選抜に不合格になった者の取扱い 推薦による入学希望者は、改めて出願手続を行うこと。この場合、大学入試センター試験は経済学部が指定した4教科を受験しなければならない。

特別選抜方法(帰国子女特別選抜)

実施学部・学科名	経済学部 夜間主コース										
募集人員	若干人										
選抜期日	入学者選抜は、筆記試験、面接及び健康診断の結果を総合して行う。 (1) 基礎的学力と日本語の熟達度を判定するために、次のとおり筆記試験及び面接を行う。										
選抜方法	<table border="1"> <tr> <th>期 日</th> <th>筆記試験及び面接</th> <th>時 間</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">平成7年12月6日(水)</td> <td>数 学</td> <td>9:30~10:30</td> </tr> <tr> <td>小 論</td> <td>10:40~11:40</td> </tr> <tr> <td>文 接</td> <td>13:30~</td> </tr> </table> (注) 小論文については出題は英語で、解答は日本語で行う。	期 日	筆記試験及び面接	時 間	平成7年12月6日(水)	数 学	9:30~10:30	小 論	10:40~11:40	文 接	13:30~
期 日	筆記試験及び面接	時 間									
平成7年12月6日(水)	数 学	9:30~10:30									
	小 論	10:40~11:40									
	文 接	13:30~									
出願期間	平成7年11月1日(水) から平成7年11月10日(金) 午後5時までに必着のこと。										
出願要件	日本国籍を有する者で、次の各号のいずれかに該当する者。 (1) 外国において、学校教育における12年の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。)を平成6年4月1日から平成8年3月31日までに卒業(修了)した者及び卒業(修了)見込みの者。ただし、外国において、最終学年を含めて3年以上継続して学校教育を受けていること。 (2) 中学校・高等学校又は中学校・高等学校相当課程を通じ3年以上外国の学校で教育を受け、日本の高等学校に在籍が1年以上あり、かつ、平成7年4月1日から平成8年3月31日までに日本又は外国の高等学校(又は高等学校相当課程)を卒業(修了)した者及び卒業(修了)見込みの者。 (3) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から、国際バカロレア資格証書を平成6年度及び平成7年度に授与された者で、平成8年3月31日までに18歳に達する者。 ただし、外国において、最終学年を含めて3年以上継続して学校教育を受けていること。 (注) 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その期間を外国において学校教育を受けたものとみなさない。										
その他	1 合格発表 平成7年12月22日(金) 午後2時 2 学生募集要項請求方法 募集要項(平成7年7月下旬発表予定)は、経済学部教務学生掛(〒657 神戸市灘区六甲台町2-1)において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「経済学部外国学校出身者学生募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手 390円を貼付した返信用封筒(角型2号、幅24.0cm×長さ33.2cm)を同封して請求すること。 ただし、受信者が外国に居住する場合には、航空郵便料130g料金相当の国際郵便を同封のこと。										

実施学部・学科名	経営学部夜間主コース
募集人員	10人
選抜期日	高等学校長の推薦に基づき、推薦書、調査書の内容、大学入試センター試験の成績、面接及び健康診断の結果を総合して入学者の選抜を行う。 個別学力検査は免除する。
選抜方法	面接期日 平成8年1月5日(金)
出願期間	平成7年12月15日(金) から平成7年12月22日(金) 午後5時までに必着のこと。
出願要件	1 推薦の要件 高等学校を平成7年3月卒業した者又は平成8年3月卒業見込みの者で、次の各号に該当し、学力のみならず人物、能力、資質等において特に優れ、高等学校長が責任をもって推薦する者。 (1) 調査書の評定平均値の平均が4.0以上の者 (2) 平成8年度大学入試センター試験の理科を除く4教科のうち、外国語を含む2教科を選抜受験する者 (3) 合格した場合、必ず入学することを確約できる者 2 推薦人員 各高等学校から推薦できる者は、1校当たり2人以内とする。
その他	1 合格発表 平成8年2月9日(金) 午後2時 2 学生募集要項請求方法 募集要項(平成7年11月中旬発表予定)は、経営学部第二課程掛(〒657 神戸市灘区六甲台町2-1)において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「経営学部夜間主コース推薦入学募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手 380円を貼付した返信用封筒(角型2号、幅24.0cm×長さ33.2cm)を同封して請求すること。 3 特別選抜に不合格になった者の取扱い 推薦による入学希望者は、改めて出願手続を行うこと。この場合、後期日程志願者は経営学部が指定した大学入試センター試験4教科のすべてを受験しなければならない。

実施学部・学科名	経営学部昼間主コース
募集人員	若干人
選抜期日	入学希望者は、筆記試験(英語)、面接及び健康診断の結果を総合して行う。
選抜方法	健康診断は、健康診断書により行う。なお、精密検査を必要と認められた者に対しては、別途通知する。
出願期間	平成7年11月1日(水) から平成7年11月10日(金) 午後5時までに必着のこと。
出願要件	日本国籍を有する者で、両親等保護者の海外における就業によって、共に外国に在留し、外国において最終学年を含めて2年以上継続して学校教育を受けており、次の各号のいずれかに該当する者。 (1) 外国において、学校教育における12年の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。)を平成6年4月1日から平成8年3月31日までに卒業(修了)した者及び卒業(修了)見込みの者。 (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から、国際バカロレア資格証書を平成6年度及び平成7年度に授与された者で、平成8年3月31日までに18歳に達する者。 (注) 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その期間を外国において学校教育を受けたものとみなさない。
その他	1 合格発表 平成7年12月22日(金) 午後2時 2 学生募集要項請求方法 募集要項(平成7年7月下旬発表予定)は、経営学部教務学生掛(〒657 神戸市灘区六甲台町2-1)で交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「経営学部帰国子女特別選抜学生募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手 190円を貼付した返信用封筒(角型2号、幅24.0cm×長さ33.2cm)を同封して請求すること。 ただし、志願者が外国に居住する場合は、必ず国内の連絡者を通じて請求すること。

特別選抜方法（社会人特別選抜）

実施学部・学科名	発 達 科 学 部			
募集人員	人間発達科学科 14人、人間環境科学科 10人、人間行動・表現学科 6人			
選抜期日	入学者選抜は、出願書類、筆記試験（英語、小論文）、面接（口頭試問）及び健康診断の結果を総合して行う。			
選抜方法	期 日	英 語 ・ 小 論 文	平成7年11月15日（水）	平成7年11月16日（木）
出願期日	平成7年10月23日（月）から平成7年10月27日（金）まで。（締切当日の消印有効）			
出願要件	入学時に社会人（主婦を含む）としての経験を5年以上有し、満23歳以上になる者で、次の各号のいずれかに該当する者。 1. 高等学校を卒業した者及び卒業見込みの者 2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び修了見込みの者 3. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定したもの 4. 文部大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び修了見込みの者 5. 文部大臣の指定した者 6. 大学入学資格検定規程により文部大臣の行う大学入学資格検定に合格した者及び合格見込みの者 7. その他大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者 （注）大学・短大・高専・専門学校等昼間課程在学期間は、社会人期間に含めない。			
その他	1 合格発表 平成7年12月1日（金）午前10時 2 学生募集要項請求方法 募集要項（平成7年9月上旬発表予定）は、発達科学部学生掛（〒657 神戸市灘区鶴甲3丁目11）において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「発達科学部社会人特別選抜募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手 390円を貼付した返信用封筒（角型2号、幅24.0cm×長さ33.2cm）を同封して請求すること。			

大学入試センター試験及び個別学力検査等における教科・科目

【期 日 程】

【前期日程】									
学部（学科、専攻等）名		入学志願者に解答させる教科・科目名等		選 抜 対 象	大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 で 入 学 志 願 者 に 解 答 さ せ る 教 科 ・ 科 目 名	個 別 学 科 等 の 教 科	学 力 検 査 科 目 等	大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 の 利 用 方 法	そ の 他
文 学 部	文学部 文学部								

【注 意】備考を参照すること。

【前期日程】

【前期日程】		学部(学科, 専攻等)名		入学志願者に解答させる教科・科目名等		選抜の 対象		大学入試センター試験で入学志願者に 解答させる教科・科目名		個別学力検査等		その 他	
人間発達科学部	人間発達科学科		文 科 系 受 験 コ ー ス			国 社(倫, 日, 世, 地理から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を選択できる。	国 数(代数・幾何, 基礎解析) 外(英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1)	国(国語Ⅰ, 国語Ⅱ)又は理(物, 化, 生, 地学から2) 「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出題範囲とする。	国語: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 理科: 2科目を同一時間内に解答させる。 数学: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 個別学力検査等の出題方法について	個別学力検査等の出題方法について	国語: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 数学: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。	個別学力検査等の出題方法について	
													数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」「工業数値」を修得した者又は文部大臣の認定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」を選択できる。
	人間環境科学科			理 科 系 受 験 コ ー ス			理(物, 化, 生, 地学から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「理科Ⅰ」を選択できる。	理(物, 化, 生, 地学から1) 「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出題範囲とする。	国(国語Ⅰ, 国語Ⅱ) 数(代数・幾何, 基礎解析) 理(物, 化, 生, 地学から1) 「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出題範囲とする。	個別学力検査等の出題方法について	個別学力検査等の出題方法について	国語: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 数学: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。	個別学力検査等の出題方法について
発達科学部	人間行動・表現学科		音 楽 受 験 コ ー ス			外(英, 独, 仏から1)	外(英, 独, 仏から1)	国(国語Ⅰ, 国語Ⅱ) 数(代数・幾何, 基礎解析) 理(物, 化, 生, 地学から1) 「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出題範囲とする。	個別学力検査等の出題方法について	個別学力検査等の出題方法について	国語: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 数学: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。	個別学力検査等の出題方法について	
													数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」「工業数値」を修得した者又は文部大臣の認定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」を選択できる。
	音楽受検コース					外(英, 独, 仏から1)	外(英, 独, 仏から1)	国(国語Ⅰ, 国語Ⅱ) 数(代数・幾何, 基礎解析) 理(物, 化, 生, 地学から1) 「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出題範囲とする。	個別学力検査等の出題方法について	個別学力検査等の出題方法について	国語: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 数学: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。	個別学力検査等の出題方法について	
													数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」「工業数値」を修得した者又は文部大臣の認定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」を選択できる。
美術受検コース						外(英, 独, 仏から1)	外(英, 独, 仏から1)	国(国語Ⅰ, 国語Ⅱ) 数(代数・幾何, 基礎解析) 理(物, 化, 生, 地学から1) 「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出題範囲とする。	個別学力検査等の出題方法について	個別学力検査等の出題方法について	国語: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 数学: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。	個別学力検査等の出題方法について	
													数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」「工業数値」を修得した者又は文部大臣の認定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」を選択できる。
体育受検コース						外(英, 独, 仏から1)	外(英, 独, 仏から1)	国(国語Ⅰ, 国語Ⅱ) 数(代数・幾何, 基礎解析) 理(物, 化, 生, 地学から1) 「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出題範囲とする。	個別学力検査等の出題方法について	個別学力検査等の出題方法について	国語: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 数学: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。	個別学力検査等の出題方法について	
													数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」「工業数値」を修得した者又は文部大臣の認定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」を選択できる。

《注 意》備考を参照すること。

【前期日程】

【前期日程】						
学部(学科, 専攻等)名		入学志願者に解答させる教科・科目名等	選抜の対象	大学入試センター試験で入学志願者に解答させる教科・科目名	個別等の教科・学力検査科目等	大学入試センター試験の利用方法
理学部	数学	科学	一般選抜 の全部	国	数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」, 「確率分布」及び「統計的な推測」は除外する。	「大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点」を参照すること。 外国語: 英語は, 3科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。
	化学	科学		社(倫, 日, 世, 地理から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を選択できる。	理(物, 化, 生, 地学から2) 「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出題範囲とする。	
	生物	科学		数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」「工業数理」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数理」を選択できる。	外(英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1)	
	地球惑星科学	科学		理(物, 化, 生, 地学から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「理科Ⅰ」を選択できる。	外(英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1)	
工学部	物理学	科学	一般選抜 の全部	外(英, 独, 仏から1)	数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」, 「確率分布」及び「統計的な推測」は除外する。	「大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点」を参照すること。
	物理学	科学		理(物, 化, 生, 地学から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「理科Ⅰ」を選択できる。	外(英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1)	

《注 意》備考を参照すること。

【前期日程】

学部(学科, 専攻等)名	入学志願者に解答させる 教科・科目名等	選抜の 対象	大学入試センター試験で入学志願者に 解答させる教科・科目名	個別学 科・科 目等	査 検 目 等	大学入試センター 試験の利用方法	そ の 他
法学部 夜間主コース		一般選抜 の全部	国 社(倫, 日, 世, 地理から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を選択できる。 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」「工業数値」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」を選択できる。 外(英, 独, 仏から1)	国(国語Ⅰ(漢文を除く), 国語Ⅱ(漢文を除く))		「大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点」を参照すること。	個別学力検査等の出題方法について 国語: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。
経済学部 夜間主コース			国 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」「工業数値」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」を選択できる。 外(英, 独, 仏から1) 社(倫, 日, 世, 地理)又は理(物, 化, 生, 地学)から1 ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を, 理科の科目にかえて「理科Ⅰ」を選択できる。	個別学力検査等は課さない			

《注 意》備考を参照すること。

【前期日程】

学部(学科, 専攻等)名	入学志願者に解答させる教科・科目名等	選抜の対象	大学入試センター試験で入学志願者に解答させる教科・科目名	個別学 科・科 目等	査 検 目 等	大学入試センター 試験の利用方法	そ の 他	
医学部	医学	一般選抜 の全部	国 社(倫, 日, 世, 地理から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を選択できる。	数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」, 「確率分布」及び「統計的な推測」は除外する。	「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出題範囲とする。	「大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点」を参照すること。	個別学力検査等の出題方法について 数学: 4科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 理科: 2科目を同一時間内に解答させる。	
			数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」「工業数値」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」を選択できる。	理(物, 化, 生, 地学から1) 「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出題範囲とする。				外国語: 英語は, 3科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。
	保健学科	看護学専攻			数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」, 「確率分布」及び「統計的な推測」は除外する。	「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出題範囲とする。	「大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点」を参照すること。	個別学力検査等の出題方法について 数学: 4科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。
		検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻		理(物, 化, 生, 地学から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「理科Ⅰ」を選択できる。	外国語: 英語は, 3科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。			

《注 意》備考を参照すること。

【後期日程】

学部(学科, 専攻等)名		入学志願者に解答させる 教科・科目名等		選抜の 対象	大学入試センター試験で入学志願者に 解答させる教科・科目名	個 等 の 別 学 科 ・ 校 目	大学入試センター 試験の利用方法	そ の 他
文 学	部	部	部	部	部	部	部	部
国際文化学部	部	部	部	部	部	部	部	部
発達科学部	部	部	部	部	部	部	部	部
人間発達科学科	部	部	部	部	部	部	部	部
人間行動・表現学科	部	部	部	部	部	部	部	部
経済学部	部	部	部	部	部	部	部	部
経営学部	部	部	部	部	部	部	部	部
法学部	部	部	部	部	部	部	部	部

《注 意》備考を参照すること。

【後期日程】

学部(学科, 専攻等)名		入学志願者に解答させる 教科・科目名等		選抜の 対象	大学入試センター試験で入学志願者に 解答させる教科・科目名	個 等 の 別 学 科 ・ 校 目	大学入試センター 試験の利用方法	そ の 他
法 学	部	部	部	部	部	部	部	部
農 学	部	部	部	部	部	部	部	部
工学部	部	部	部	部	部	部	部	部
理 学	部	部	部	部	部	部	部	部
数 学	部	部	部	部	部	部	部	部
物 理	部	部	部	部	部	部	部	部
生 物	部	部	部	部	部	部	部	部
地 球	部	部	部	部	部	部	部	部

《注 意》備考を参照すること。

【後期日程】

学部(学科, 専攻等)名	入学志願者に解答させる 教科・科目名等	選抜の 対象	大学入試センター試験で入学志願者に 解答させる教科・科目名	個別 等の 教科 の 教 育 学 科 ・ 力 検 査 等	大学入試センター 試験の利用方法	そ の 他
経済学部 夜間主コース			国 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」「工業 数値」を修得した者又は文部大臣の指定を受け た高等学校高等課程の学科の修了(見込み)者 は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」 を選択できる。 外(英, 独, 仏から1)	個別学力検査等は課さない		
医学部	医学	一般選抜 の全部	国 社(倫, 日, 世, 地理)又は理(物, 化, 生, 地学)から1 ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業(見 込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代 社会」を選択できる。	小論文	「大学入試センタ ー試験及び個別学 力検査等の教科別 配点」を参照する こと。	個別学力検査等の出題方法について 小論文の内容については、別掲の小論文 の内容を参照すること。
	看護学専攻		数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」「工業 数値」を修得した者又は文部大臣の指定を受け た高等学校高等課程の学科の修了(見込み)者 は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」 を選択できる。			
	保健学科 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻		理(物, 化, 生, 地学から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業(見 込み)者以外の者は上記の科目にかえて「理科 Ⅰ」を選択できる。 外(英, 独, 仏から1)	小論文 面接		

《注 意》備考を参照すること。

【推薦入学】

学部(学科, 専攻等)名	入学志願者に解答させる 教科・科目名等	選抜の 対象	大学入試センター試験で入学志願者に 解答させる教科・科目名	個別 等の 教科 の 教 育 学 科 ・ 力 検 査 等	大学入試センター 試験の利用方法	そ の 他
経済学部 昼間主コース			国 社(倫, 日, 世, 地理から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業(見 込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代 社会」を選択できる。 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」「工業 数値」を修得した者又は文部大臣の指定を受け た高等学校高等課程の学科の修了(見込み)者 は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」 を選択できる。 理(物, 化, 生, 地学から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業(見 込み)者以外の者は上記の科目にかえて「理科 Ⅰ」を選択できる。 外(英, 独, 仏から1) 下記の4教科のうち1教科を選択 受験すること。 記	個別学力検査等は課さない	5教科6科目を利 用するが「大学入 試センター試験及 び個別学力検査等 の教科別配点」は 適用しない。	
法学部 夜間主コース		推薦入学	国 社(倫, 日, 世, 地理から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業(見 込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代 社会」を選択できる。 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」「工業 数値」を修得した者又は文部大臣の指定を受け た高等学校高等課程の学科の修了(見込み)者 は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」 を選択できる。	面接	理科を除く4教科 のうち1教科を利 用する。 「大学入試センタ ー試験及び個別学 力検査等の教科別 配点」を参照する こと。	
経済学部 夜間主コース			数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」)又は外(英) ただし、高等学校において「簿記会計」「工業 数値」を修得した者又は文部大臣の指定を受け た高等学校高等課程の学科の修了(見込み)者 は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」 を選択できる。	面接	数学と外国語 (英)のうち1教 科を利用する。 「大学入試センタ ー試験及び個別学 力検査等の教科別 配点」を参照する こと。	

《注 意》備考を参照すること。

【推薦入 学】

学部(学科,専攻等)名	入学志願者に解答させる 教科・科目名等	選 抜 対 象	大 学 入 試 セ ン タ ー 解 答 さ せ る 教 科 ・ 科 目 名	個 別 等 の 教 科	学 科 ・ 科 目	査 検 目	大 学 入 試 セ ン タ ー 査 検 の 利 用 方 法	そ の 他
経 営 学 部 夜 間 主 コ ー ス		推薦入学	下記の4教科のうち外国語を含む 2教科を選択受験すること。 国 社(倫,日,世,地理から1) ただし,高等学校の普通科・理数科の卒業(見 込み)を以ての者は上記の科目にかえて「現代 社会」を選択できる。 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし,高等学校において「簿記会計」「工業 数理」を修得した者又は文部大臣の指定を受け た専門学校高等課程の学科の修了(見込み)者 は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数理」 を選択できる。 外(英,独,仏から1)	面接			理科を除く4教科 のうち2教科を利 用する。 「大学入試センター 試験及び個別学力 検査等の教科別配 点」を参照するこ と。	

備 考 1. 大学入試センター試験の教科・科目で必要とする科目数を超えて受験した場合の取扱いにつ
いて

ア. 後期日程の工学部(機械工学科)の理科は,指定した2科目の成績を用いる。

イ. 後期日程の理学部の理科は,高得点順に2科目の成績を用いる。

ウ. 経済学部夜間主コースの社会又は理科は,高得点の教科・科目の成績を用いる。

エ. 上記ア,イ,ウ以外の理科は,高得点の科目の成績を用いる。

オ. 前期日程の経営学部夜間主コースは,高得点の2教科の成績を用いる。

カ. 推薦入学の法学部夜間主コースは,高得点の教科・科目の成績を用いる。

キ. 推薦入学の経済学部夜間主コースは,指定した教科・科目のいずれか高得点の成績を用いる。

ク. 推薦入学の経営学部夜間主コースは,高得点の教科・科目の成績を用いる。

2. 前期日程の発達科学部の人間環境科学科を志願する者は,文科系受験コース又は理科系受験

コースのいずれかを選択し,受験しなければならない。

3. 前期日程の発達科学部の人間行動・表現学科を志願する者は,音楽受験コース,美術受験コー

ス又は体育受験コースのいずれかを選択し,受験しなければならない。

4. 後期日程の発達科学部の人間環境科学科を志願する者は,文科系小論文受験コース,理科系
数学受験コース又は理科系小論文受験コースのいずれかを選択し,受験しなければならない。

5. 後期日程の発達科学部の人間行動・表現学科を志願する者は,音楽受験コース,美術受験コー
ス又は体育受験コースのいずれかを選択し,受験しなければならない。

6. 前期日程の経営学部夜間主コースは,入学者選抜の際,次の者についてそれぞれ優先的に取
扱う。

① 大学入試センター試験の5教科(国語・社会・数学・理科・外国語)の総合点(大学入試
センターの配点による)の高得点者(前期日程募集人員の約30%)

② 個別学力検査の3教科(国語・数学・外国語)の総合点の高得点者(前期日程募集人員の
約30%)

7. 後期日程の経営学部夜間主コースを志願する者は,数学受験コース又は英語受験コースのい
ずれかを選択し,受験しなければならない。

実 技 検 査 の 内 容

発達科学部〈人間行動・表現学科〉

音楽受験コース

前期日程・後期日程共通

全員に次の検査を行う。

1. 新曲視唱(コルニューブングン第1巻終了程度)
2. ピアノによる初見視奏(ツェルニー30番終了程度)
3. 簡単な二声聴音の書き取り
4. 各自任意の器楽曲又は, 声楽曲を1曲演奏すること。

※ 演奏は諸民族の楽器も含み, 楽曲のジャンルと様式は問わない。

※ 演奏する楽曲は10分以内のものとし, 自作のものでもよい。

※ 伴奏ピアノリストは大学で用意する。

※ 声楽演奏の場合

① 伴奏ピアノリストは大学で用意する。

② 伴奏楽譜を翻書と共に提出すること。

③ 弾き歌い及び無伴奏も認める。

※ 楽器演奏の場合は, 無伴奏とする。

※ 演奏はすべて暗譜とする。

※ ピアノ以外の楽器は各自で用意すること。

美術受験コース

前期日程・後期日程共通

全員に次の検査を行う。

1. 共通課題(基礎造形) 2時間

*Hの鉛筆を持参すること。

2. 選択課題 3時間30分

A. 美 術

*水彩用具, 鉛筆等を使用する場合があるので, 各自持参すること。

B. デザイン

*彩色用具及び直定規, 三角定規, コンパス, 鉛筆等を使用する場合があるので,

各自持参すること。

体育受験コース

前期日程

1. 体力及び基礎運動能力を検査する。
2. 次の5つの運動種目から3種目を選択させ, その実技能力を検査する。

① 体操競技

② 陸上競技

③ 球技(バスケットボール, バレーボール, サッカー, 野球, バドミントン, ハンドボール,
ラクビー, 卓球, テニスから1種目選択)

④ 武道(柔道, 剣道から1種目選択)

⑤ 創作ダンス

後期日程

1. 運動・スポーツに関する映像(ビデオ等)を見て, 身体運動についての観察力を検査する。
2. 次の運動種目から1種目を選択させ, その実技能力を検査する。

体操競技, 陸上競技, バスケットボール, バレーボール, サッカー, 野球, テニス, 柔道,
創作ダンス

文 学 部	
1. 文学部の勉学に必要な理解力、思考力、表現力を試す問題を課する。	
2. 解答時間及び配点	2 時間 200点
発達科学部	
◎人間発達科学科	
1. 理解力、思考力、表現力等を問うため、資料を与えて論述させる。	
2. 解答時間及び配点	2 時間30分 150点
◎人間環境科学科	
文科系小論文受験コース	
1. 論 文 社会科学・人文科学に関する資料を与えて論述させる。	
2. 解答時間及び配点	2 時間30分 200点
3. 試験の狙い 理解力、思考力、論理的表現力等を問う。	
理科系小論文受験コース	
1. 論 文 自然科学に関する資料を与えて論述させる。	
2. 解答時間及び配点	2 時間30分 200点
3. 試験の狙い 理解力、思考力、論理的表現力等を問う。	
法学部昼間主コース	
1. 論 文 資料を与えて論述させる。 (800字～1000字程度)	
2. 解答時間及び配点	3 時間 200点
3. 試験の狙い 理解力、思考力、表現力を問う。	

理 学 部	
◎物理学科	
1. 筆記試験 高等学校における理科（主として物理）の問題を与えて、論述又は他の形式で解答させる。	
2. 解答時間及び配点	2 時間 200点
3. 試験の狙い 理解力、思考力、表現力等を問う。	
◎地球惑星科学科	
1. 筆記試験及びその狙い 自然科学の勉学に必要な論理的解析力、直観力、表現力等を試す問題を与えて、解答させる。	
2. 解答時間及び配点	3 時間 400点
医 学 部	
◎医学科	
1. 総合筆記試験 和文又は英文の問題を与えて、論述又は他の形式で解答させる。	
2. 解答時間及び配点	3 時間 400点
3. 試験の狙い 理解力、解析力、社会性、論理性、総合学力など、医師となるための適性を見る。	
◎保健学科	
1. 総合筆記試験 和文又は英文の問題を与えて、論述又は他の形式で解答させる。	
2. 解答時間及び配点	2 時間 200点
3. 試験の狙い 理解力、解析力、社会性、論理性、総合学力など、医療技術者となるための適性を見る。	

大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点

日 程	期 前										程 日									
	文 学 部		発 達 科 学 部		法 学 部		経 済 学 部		経 営 学 部		理 学 部		医 学 部		農 学 部		工 学 部		医 学 科 保 健 学 科	
教科	国際文化学部		人間発達科学科		人間環境科学科		人間行動・表現学科		法学部		経済学部		経営学部		理学部		工学部		農学部	
	センター試験 100	個別学力検査 150	センター試験 100	個別学力検査 150	センター試験 100	個別学力検査 150	センター試験 80	個別学力検査 80	センター試験 100	個別学力検査 100	センター試験 100	個別学力検査 100	センター試験 100	個別学力検査 100	センター試験 100	個別学力検査 100	センター試験 100	個別学力検査 100	センター試験 100	個別学力検査 100
国 語	100	150	100	150	100	150	80	80	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
社 会	100	100	100	100	100	100	80	80	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
数 学	75	75	75	75	75	75	80	80	75	75	100	100	75	100	100	100	100	100	100	100
理 科	75	150	75	150	75	150	80	80	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
外 国 語	100	125	100	125	100	125	80	80	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
小 論 文																				
実 技																				
計	450	350	450	350	450	375	400	400	425	375	500	100	450	350	200	300	375	425	400	400
合 計	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	600	600	800	800	500	800	800	800	800	800

備 考 1. 経済学部昼間主コース、法学部、経済学部及び経営学部の各夜間主コースの推薦入学については、上記の教科別配点を適用しない。
2. 前期日程の経営学部昼間主コースの入学選抜の際、次の者についてそれぞれ優先的に取扱う。
① 大学入試センター試験の5教科（国語・社会・数学・理科・外国語）の総合点の高得点者（前期日程募集人員の約30%）
なお、配点は国語 200、社会 100、数学 200、理科 100、外国語 200（大学入試センターの配点）による。
② 個別学力検査の3教科（国語・数学・外国語）の総合点の高得点者（前期日程募集人員の約30%）

日 程	後 期										日 程	
	学 部		学 部		学 部		学 部		学 部		学 部	
	文 学 部	国際文化学部	人間発達科学部	環境科学部	理 学 部	理 学 部	理 学 部	理 学 部	理 学 部	理 学 部	法 学 部	経 済 学 部
教科	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
国 語	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
社 会	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
数 学	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
理 科	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
外国語	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
小論文	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
実 技												
計	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400
合 計	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800

備考 8. 表中の★印は、受験した教科・科目のうち高得点の成績を用いる。

9. 表中の×印は、大学入試センター試験を受験しなくてもよい。

【推薦入学】

日 程	後 期										日 程	
	学 部		学 部		学 部		学 部		学 部		学 部	
	文 学 部	国際文化学部	人間発達科学部	環境科学部	理 学 部	理 学 部	理 学 部	理 学 部	理 学 部	理 学 部	法 学 部	経 済 学 部
教科	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語	センター試験 英語 国語
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
国 語	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
社 会	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
数 学	25	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
理 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外国語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小論文	25	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
実 技												
計	25	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
合 計	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125

備考 10. 表中の×印は、大学入試センター試験を受験しなくてもよい。

11. 表中の○印は、大学入試センター試験を受験しなくてもよい。

12. 後期日程の医学部保健学科の各専攻は、面接の内容も加味して判定を行う。

13. 工学部（機械工学科）の大学入試センター試験の理科の配点は物理 100点、化学又は理科 180点とする。

14. ①推薦入学の法学部夜間主コースは、理科を除く 4 教科のうち 1 教科を選択受験すること。

②推薦入学の経済学部夜間主コースは、数学又は外国語（英語）のうち 1 教科を選択受験すること。

③推薦入学の経営学部夜間主コースは、理科を除く 4 教科のうち外国語（☆印）を含む 2 教科を選択受験すること。

◇平成8年度大学院学生募集要項（抜粋）

◎修士課程

研究科	専攻	募集人員	出願期間	試験日	試験場	合格者発表
文学研究科 (Ⅰ期)	哲学専攻	8名	H.7.9.4(月) } H.7.9.6(水)	H.7.10.3(火) 4(水)	神戸大学 文学部学舎	H.7.10.13(金)
	芸術学芸術史専攻	4名				
	社会学専攻	6名				
	史学専攻	14名				
	国文学専攻	8名				
	英米文学専攻	10名				
教育学研究科	学校教育専攻	10名	H.7.9.11(月) } H.7.9.14(木)	H.7.10.3(火)	神戸大学 発達科学部学舎	H.7.10.13(金)
	国語教育専攻	5名				
	社会科教育専攻	10名				
	数学教育専攻	5名				
	理科教育専攻	10名				
	音楽教育専攻	5名				
	美術教育専攻	5名				
	保健体育専攻	5名				
	技術教育専攻	5名				
国際協力研究科	国際開発政策専攻	※24名	H.7.8.1(火) } H.7.8.8(火)	H.7.8.30(水) 31(木)	神戸大学 経済学部学舎	H.7.9.11(月)
	国際協力政策専攻	※22名				
	地域協力政策専攻	◇18名				
自然科学研究科	数学専攻	15名	H.7.7.24(月) } H.7.7.28(金)	H.7.9.18(月)・19(火)	神戸大学 理学部学舎	H.7.10.3(火)
	物理学専攻	15名		H.7.9.19(火)～21(木)		
	化学専攻	15名		H.7.8.30(水)・31(木)		
	生物学専攻	20名		H.7.9.20(水)・21(木)		
	地球惑星科学専攻	18名			神戸大学 工学部学舎	H.7.9.4(月)
	建設学専攻	*72名				
	電気電子工学専攻	*42名				
	機械工学専攻	*42名		H.7.8.30(水) 31(木)		
	応用化学専攻	47名			神戸大学 農学部学舎	H.7.9.13(水)
	情報知能工学専攻	*51名				
	応用動物学専攻	17名				
	植物資源学専攻	*18名				
	生物環境制御学専攻	15名		H.7.8.30(水) 31(木)		
	生物機能化学専攻	15名				
	生産環境情報学専攻	12名				

*印には外国人留学生7名を除く。

※印には外国人留学生5名を含む。

◇印には外国人留学生3名を含む。

◎博士課程前期課程

研究科	専攻	募集人員	出願期間	試験日	試験場	合格者発表
法学研究科	私法専攻	21名以内	H.7.7.24(月) } H.7.7.31(月)	H.7.9.4(月)～6(水) H.7.9.4(月)～6(水)・9(土)	神戸大学 法学部学舎	H.7.9.18(月)
	公法専攻	15名以内				
	法政策専攻	28名				
経済学研究科	経済学・経済政策専攻	30名	H.7.7.25(火) } H.7.7.31(月)	H.7.8.28(月)・29(火)	神戸大学 経済学部学舎	H.7.9.18(月)
	国際経済専攻	13名				
経営学研究科	マネジメント・システム専攻	63名	H.7.7.31(月) } H.7.8.4(金)	H.7.8.28(月)・29(火)	神戸大学 経営学部学舎	H.7.9.14(木)
	企業システム専攻					
	経営総合分析専攻					
	日本企業経営専攻					

◎博士課程後期課程

研究科	専攻	募集人員	出願期間	試験日	試験場	合格者発表
自然科学研究科	物質科学専攻	10名	H.7.8.1(火) } H.7.8.7(月)	H.7.9.7(木)・8(金)	神戸大学 大学院自然科学 研究科学舎	H.7.9.25(月)
	生産科学専攻	☆10名				
	資源生物科学専攻	☆7名				
	環境科学専攻	☆7名				
	システム科学専攻	☆6名				
	知能科学専攻	☆6名				
	生命機能科学専攻	13名				

☆印には外国人留学生2名を除く。

※ 文化学研究科、医学研究科については、次号以降に掲載する。

◇平成7年度国際研究集会派遣研究員の決定（第Ⅱ期）

所属・職名 氏名	研究集会名	開催地	開催期間
国際文化学部助教授 坂本千代	第15回国際文学批評家学会国際総会	ヌオロ (イタリア)	7.9.28 ～7.10.2
理学部助教授 瀬恒潤一郎	アメリカ化学会第210回年次大会	シカゴ (アメリカ合衆国)	7.8.20 ～7.8.24
工学部助手 安達和彦	アジア太平洋振動会議95	クアラルンプール (マレーシア)	7.11.27 ～7.12.1

掲 示 板

◇神戸大学に寄せられた義援金について

去る1月17日の兵庫県南部地震により多数の家屋が倒壊するなど甚大な被害を受け、5,500名を超える尊い命が失われました。

本学においても職員2名、学生39名の尊い命が奪われ、また、建物及び研究機材の損傷を始め貴重な資料等が消失しました。

本学のこの様な被災状況に対し、同窓会、諸先輩並びに他の国立大学、一般企業等から、一日も早い復興と教職員、学生、留学生への支援のため義援金が寄せられました。

この義援金については、全額を支援者の御意向に沿って有効に使用できるように、6月8日(木)の部局長会議で検討を行いました。その結果を報告致します。

その概要は、次のとおりです。

1 義援金受入れ額

(1) 受入れ額 (115件) (総額)
63,521,307円

2 使用済額

(1) 神戸大学犠牲者合同慰霊祭 (3月17日実施) 経費
15,601,796円
(2) 下宿幹旋経費 (印刷費等)
448,460円
(3) 為替手数料
1,030円
計、 16,051,286円

3 使用計画

(1) 阪神・淡路大震災に伴う
学生生活アンケート経費 (集計謝金)
約200,000円
(2) 慰霊碑建立経費 (除幕式経費含む)
約5,000,000円
(3) 見舞金
職員 約20,000,000円
(対象者: 1月17日に被災した在职者で全焼・全壊、半焼・半壊又は入院1週間以上の負傷者
約400名 1人当り50,000円)
学生及び留学生 約20,000,000円
(対象者: 1月17日に被災した在校者)

学者で現在在学中の修学困難な者 人選及び額は、学生部及び留学生センターで検討)

(4) 以上に伴う必要経費

—庶務課—

◇日 誌

(平成7年6月)

6月2日(金)・3日(土)

補導協議会・厚生補導担当教官研究会 (於: 新たんば荘)

5日(月) 創立90周年記念事業検討委員会

8日(木) 部局長会議

入試委員会

保健委員会

19日(月) 社会教育主事講習開講式

(於: 発達科学部)

20日(火) 学位記授与式

21日(水) 人事院式監督者研修 (JST基本コース 於: 自然科学系図書館)

22日(木) 評議会

名誉教授・部局長懇談会

(於: 新神戸オリエンタルホテル)

26日(月) 補導協議会

27日(火) 事務連絡会議

27日(火) ~30日(金)

兵庫県下国立学校等事務系職員新規研修

(於: 自然科学系図書館・国立淡路青年の家)

◇訂 正

学報 No.	頁	誤	正
465	51	◎内海域機能教育研究 センター運営委員会	◎内海域機能教育研究 センター運営委員会
		農学部 助教授 清水 晃	農学部 教 授 清水 晃
	55	◎発明委員会	◎発明委員会
		農学部 助教授 真山滋志	農学部 教 授 真山滋志

神戸大学100年史編集室だより

—歴史のひとこま—

前身校の歴史—神戸高等商業学校における課外活動について (その12) —

大正時代も後半に入ると、日本経済が目覚ましい発展にともなう余暇を楽しむ時間的余裕のある人々も出現し、様々な近代的スポーツが展開してくる。神戸高等商業学校においても、この時期に新たに学友会公認の部になるものが出てくる。登山部・水泳部・蹴球部などである。本号ではこのなかで登山部の誕生とその活動について見てみたいと思う。

神戸高等商業学校で登山部が正式に学友会によって承認されたのは大正9年末のことである。しかしながらそれ以前にすでに神戸高商の学生の中には登山に興味をもち、活動をしていた者がいて、彼らは大正4年7月に「大自然に懐きを感じ、山に憧れを覚える学生数名が集って」神戸高商山岳会を結成していた。この神戸高商山岳会が大正9年山岳部となるのである。

大正4年に神戸高商山岳会を設立した発起者は、大河原・古川・神成・岡本・原田・平井の6名の学生で、その他に賛助者として当時商品学を教えていた大山爾也と体操教官であった岡田英定の両教官が加わっていた。

発起者たちの希望とする所は、「神戸高商山岳会の設立は……随分広汎な多欲な意味を以てゐる。近頃流行するかの何々アルプスの踏破其の者を唯一の目的とする所謂アルピニストの群と云ふのみではない。半日の清遊を溪山に求めたいと云ふ気軽な意味のPedestrianも居る。詩や歌やこんな方面の真面目な山岳の研究者も居る。要するに自然を愛し土の匂ひに何等かの趣味を有する者の山岳会である。狭い意味に囚はれて無暗に山岳を山岳として解したくない」ということであった。

こうした希望をもって神戸高商山岳会は誕生したのである。その会則は以下のようなものである。

神戸高商山岳会々則摘要

- 一、本会ハ神戸高商山岳会ト称ス
- 二、本会ハ山野ヲ跋涉シ登山趣味ヲ涵養シ心身ノ練磨ヲ計ルヲ目的トス
- 三、本校学生ハ本会々員タル資格ヲ有スルモノトス
- 四、本会ニ幹事若干名ヲ置ク
- 五、会費ハ当分ノ内之レヲ徴集セズ
但シ遠足当日ノ入費ハ参加者之レヲ分担ス

この山岳会は、大正4年7月中に第1回例会を開催し日曜日に学校の裏山(恐らく摩耶山)を逍遙し、同じく第1回の山岳講演会を地理教室で行なった。

夏休みに入って、7月末に4~5人の有志学生が、来年からの本格的な山岳活動の下調として立山と白山に登っている。7月27日夜三ノ宮を出発し、29日立山に登り、8月1日金沢着、途中天候険悪などあって8月7日白山頂上に登り、10日朝神戸に着き解散という日程であった。この登山に同行した岡田英定体操教官は、登山の予行演習として、(1)平素慣れている靴を草鞋に変え、(2)暑い夏の1日12時間の歩行をやり、(3)運動中は水をできるだけ飲まないという原則のもとに、4~5日間神戸近くの山に登り試験を行ない合格と思って、いざ本盤では、「今度の旅行で一番困ったのは荷物を負ふことの不幸だったのが原因で、これが為め荷物夫より足許を見られ、賃金も貪ばられ、時間を徒費させられ、或は又少からぬ侮辱も受けた」というように、まだまだ登山に関する認識不足を痛感したようである。

この貴重な経験によって、「今後は斯る偏僻の地に旅行せん時には、豫め自分の荷物は自分で負ふ事の出来る様練習し置く事が、極めて肝要である」ということを更めて認識したようである。